

## ソーシャルワークと社会正義 ー日本の社会福祉は貧困にどう対峙するのかー

「日本の社会をより良い社会に変革するには、ソーシャルワークが社会運動の一環として、改めてマクロ的な視野を取り戻さない限りは不可能ではないのか?」、「ソーシャルワークは今こそ、社会正義や人間性の回復という価値基盤・原点に戻り、本来のソーシャルワークを取り戻せねばならない。この挑戦なくして、ソーシャルワークの未来はない」。

上記の言葉は、訓覇法子が、『ソーシャルワークの復権ー新自由主義への挑戦と社会正義の確立』(Ferguson2008=2012:263)への寄稿で、「本書が日本で読まれることの意義について」と題して述べたものである。

現在の日本では新自由主義的政策の下、非正規労働者の増加、1世帯辺りの平均所得も減少し、「子どもの貧困」が社会問題化するなど、社会の構造的な問題として貧困は拡大・深化している。こうした中、2014年7月には、「改正」生活保護法が施行され、2015年4月には、生活困窮者自立支援法が施行されようとしている。また、2013年8月からは、生活保護基準の切り下げが始まり(3年間で670億円)、その削減された財源が生活困窮者自立支援に投入されている。「社会運動の一環としてマクロ的な視野を取り戻さなければならぬ」という指摘は、こうした状況に対して、ソーシャルワークが個別の支援に止まり、貧困の拡大・深化に対して具体的な取り組みをしてきたと言えるのか、と問うていることに他ならない。実際、本来のソーシャルアクションを実践できている社会福祉士(ソーシャルワーカー)は一部であることが明らかになっている。これは社会福祉士だけの問題ではない。社会福祉・ソーシャルワークの研究者も、ソーシャルアクションを視野に入れた行動をとることができていたのだろうか?今、日本のマネジメント化しつつあるソーシャルワークは、新自由主義の元で、構造的に拡大・深化する貧困を前に、その在り方が厳しく問われていると言える。

今回の情報交換会では、上記のような問題意識を前提にしながら、根源的なソーシャルワークが持つ貧困に対峙する機能(ソーシャルアクション等)と、貧困に対峙する社会福祉の思想・哲学を再考する場としたい。

日 時: 2015年3月8日(日) 13:30~16:30 (受付開始: 12:45。終了後、懇親会の開催を予定)

報告者: ①石坂誠(佛教大学大学院社会福祉学研究科博士課程)

「貧困者・生活困窮者支援のあり方についての考察ー2つの調査と若者の貧困の実態からー」

②中野加奈子(大谷大学)

「京都のホームレス問題の実際と見逃されてきた貧困」

コメンテーター: 伊藤文人(日本福祉大学)

コーディネーター: 鈴木勉(佛教大学)

場 所: キャンパスプラザ京都6階 龍谷大学サテライト教室(第7講習室)

京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路町939 (<http://www.consortium.or.jp/about-cp-kyoto/access>)

参加費: 無料。

参加申し込み: [antonkun@human.ryukoku.ac.jp](mailto:antonkun@human.ryukoku.ac.jp) (阪口春彦)宛に、①お名前、②ご所属、③懇親会参加の有無をご記入のうえ、2015年3月2日(月)までにお申込みください。